

## 「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勸作戦」⑪札幌学院大

### 強豪復活へ第一歩

今年で48回を数える北海道学生アメリカンフットボール選手権。昨年までの優勝回数は北海道大の26回を最多に、北海学園大と札幌大が8回、これに続くのが札幌学院大と小樽商科大（休部中）の4回だ。札幌学院大は3連覇した1993年にはパインボウルで東北大を下し、初の東日本大学王座にも輝いた。

その強豪校が今、部員不足に苦しんでいる。2019年は1部3位だったが、新型コロナウイルス禍で春に新入部員勧誘ができなかった20年は2年生以上の部員13人で1部Aブロック最下位の3位、部員が10人まで減った21年は無念の棄権となった。14年ぶりに降格した2部で迎える今年のチームは選手が3年生4人、2年生3人の計7人とスタッフ2人。強豪復活への第一歩が新入部員の獲得になった。「まずは11人そろえること。この代から、もう一度チームを作り直す」と市村脩渡主将（3年）が宣言した。

勧誘計画は2月から練り始めた。市村主将ら今の3年生が入部したのは1年生の10月。「コロナ禍で自分たちはしっかりと勧誘された経験がない。手探りなので、早めに準備を始めた」と言う。部員9人でアイデアを出し合い、3月中旬にはPR動画とポスターを用意した。「動画は、2019年、20年と2年連続リーディングラッシャーになったアンダーソンさんの画像をSNSで流した。ポスターは枚数制限で8枚だったが、補うために勧誘ビラ500枚を作り、入学式の会場で配った」と市村主将。

4月第1週には履修登録会も2回開いた。40人ほどの新入生が訪れ、学部、学科ごとに部員が科目選びのコツを伝授した。14日には景品を用意したビンゴ大会、バスケットボールを楽しむスポーツ大会も10回近く開いた。「アメフトにこだわらずに、まずは新入生を集める」のが狙いだった。新札幌校舎にもアメフト部員が江別市文教台から出向き、ビンゴ大会を開いた。アメフトを肌で知ってもらおうと練習体験会も3回開いた。毎回4、5人の新入生が集まり、ヘルメットをかぶってパスキャッチに挑戦。「楽しいという声も聞こえた」と部員たちを喜ばせた。

熱意が実り、連休前に選手2人とマネジャー4人が入部した。札幌真栄高柔道部出身の小山琉斗君（1年）は「先輩はいい人ばかり」と部の雰囲気の良いさも気に入った。連休明けから新入生も練習に加わる。春は北星学園大と合同チームでオープン戦に臨む札幌学院大。去年の練習試合しか実戦経験のない2、3年生にとってもチームの独り立ちも絶対的な目標だ。市村主将は「これからも勧誘を続け、もっと部員を増やす。選手集めが復活の第一歩」と力を込めた。



新入生12人が参加したビンゴ大会。選手1人が入部を決めた。